

不動産学の魅力

明海大学 不動産学部

第47回



渡部 旭
不動産学部
4年

宇都宮市は2023年8月、中心市街地があるJ宇都宮駅西側とは反対側の東口に新たなLRT（次世代型路面電車）を整備した。このLRTは、東口から高根沢工業団地までを約14・6^分結ぶ、総事業費は600億円を超える大規模なプロジェクトである。なぜ、このLRTが中心市街地ではない東口に設置されたのか、疑問を持ち調べてみた。

宇都宮LRT（次世代型路面電車）

都市の魅力と生活の質を向上させる

宇都宮市は自動車依存が非常に高い都市で、多くの市民が日常的に車を使用している。しかし、市の東部には2つの工業団地があり、通勤時間帯の慢性的な渋滞や大気汚染に悩まされていた。これを解消し、さらに少子高齢化が進む中で車を運転で

「快適な移動を全ての利用者に提供する」というコンセプトのもと、LRTは設計されている。実際に見に行くと、車両の乗降口がとても低く設計されていることに驚いた。ホームの高さも数十センチほどで、車両との段差や隙間がほぼなく、バリアフリー性に特に配慮しているこ

性を高めるため、改札は設置されず、車内にICカードリーダーが設置されているだけであった。初めての利用で少し戸惑ったが、慣れればスムーズな利用ができそうだ。LRTの利用者は最初の1年で累計600万人を超え、当初の予想を大きく上回った。通勤者だけでなく、学生や主婦など、さまざまな市

民が利用し、多くの人々で賑わっている。特に通勤・通学の混雑時でもLRTはスムーズに、そして快適に移動できる手段として重宝されているようだ。土地と建物について学ぶ不動産学部では、公共交通が都市の魅力向上に重要な役割を果たすことに気がつきにくい。LRTの整備は、単に渋滞解消にとどまらず、市民生活の質向上や、環境に配慮した持続可能な都市づくりに向けた重要な一歩となることがよく理解できた。

【教員コメント】

（小杉学）